

# 平成30年度 第5回細谷小学校学校運営協議会議事録

平成31年2月19日(火) 18:00～

## 1 開会あいさつ 進行 会長

## 2 あいさつ 学校運営協議会会長

- ・今年度最終の学校運営協議会、お世話になります。物事が成功するために3つの目が必要。

鳥の目 高いところから俯瞰して見る。

虫の目 低いところから、複眼で、細かく緻密に見る。

魚の目 目で見るといより、流れを感じ取る。

委員として、現場で子どもの姿を見て、生き生きとした子どもの姿を感じ取ることができた。今後の活動に生かしていきたい。

細谷小学校長

- ・ここで話し合われたことが、いくつも実現している。前向きで建設的な協議に感謝。

見守りボランティア、クリーン活動(通学路のゴミ拾い、下草刈り)

ケーブルテレビによる学校祭の情報発信

- ・学校は、言わば虫の目、鳥の目や魚の目は疎かになりがちだろう。地域や保護者のみなさんの広い目で、補ってけるとよい。

## 3 協議 進行 教頭

第4回の協議で、小規模特認校としての本校の今後の可能性について協議をしてきた。その際、会長から紹介のあった、城山西小のドキュメンタリー映画「この学校はなくさない」の試写会についての案内をさせていただいたが、会長、校長ほか、教職員4名で鑑賞してきた。今後、小規模特認校としての本校の在り方の協議は次年度にも継続していくが、今回は、30年度の学校運営状況(学校評価結果)についてのご意見をいただき、今年度のまとめとしたい。

### (1) 学校運営状況等の評価について

#### 【資料】

学校だより「いきいき細谷っ子」特別号

(児童アンケート・保護者アンケートのまとめと考察・改善策の公表)

教職員アンケート集計結果

学校運営協議会委員アンケート集計結果

細谷小卒業生のアンケート(細谷小で学んだこと・よかったと思うこと/  
中学生になるまでにしておくことよいと思うこと  
もっとできるようにしておきたかったこと)

### ○「あいさつ」に関して

- ・保護者、地域の方からの「あいさつ」があまりよくできないという評価を受けて、朝会(校長講話)で、「あいさつ」について、どのようなあいさつがよいか、考えさせた。笑顔で、名前を呼んで、自分から、軽くお辞儀をして等を確認したところ、早速、気持ちのよいあいさつが校内で聞かれるようになった。
- ・12月の運営協議会で来校した時は、校内であいさつが少ないと感じたが、先週の授業参観の時に、気持ちのよいあいさつがたくさん聞かれた。とても雰囲気よかった。
- ・朝会で「あいさつ」について校長から話を聞いた後、子どもたちが意識してあいさつをしている。打てば響く素直な子どもたちである。
- ・駅で見かける高校生の様子も、車で送ってもらう高校生が車から降りて、黙ってドアをバタンと閉めて歩いて行く姿にショックを受けた。車の中で「行ってきます」など、言っているのかもしれないが、高校生の皆が皆、そのような様子であった。あいさつは、言わない習慣ができてしまうと、あいさつしなくてもそれが当たり前、何とも思わなくなってしまう。あいさつする習慣を身に付けさせたい。
- ・登校の様子など、比較的あいさつはできているのではないかと思う。

- ・立哨指導の時など、大人から声をかけることが必要。
- ・家に（だれもいなくて）「ただいま」と帰る子どもも少ないのではないか。
- ・学校で「昔遊び」をしたときに、多くの子どもといろいろな遊びをして、「ありがとう」という言葉がたくさん聞かれた。子どものそうした声が聞こえることは地域にとっても大切。
- ・「社会を明るくする運動」で中高生が街頭であいさつをする機会があるが、気持ちがよいことだ。

#### ○「読書」について

- ・読書についての保護者の評価が、他項目と比べて低い。
- ・学校では読書しているようだが、家ではゲームばかりしている。ゲームのおもしろさは子どもは知っているが、読書の楽しさは分かっていないかもしれない。
- ・学校では「読み聞かせ」や「家読」をしている。読みたいと思える本に出会えるとよい。
- ・親や大人もあまり読んでいないのでは。親の影響が大きい。
- ・日曜日は図書館に行く家庭もある。
- ・学童でボランティアをしていると、ゲームでない遊びのおもしろさを経験できる子どもの姿を見る。（紙飛行機、竹馬など）
- ・やってみると分かるおもしろさがある。
- ・本校でも、橋本地区老人会の方との「昔遊び」の後、竹馬ブームになり、今も続いていて、竹馬から一輪車にも広がっている。
- ・ゲームはネット依存の危険もあり、ちがったおもしろさを味わわせたい。竹馬、一輪車は、小さいうちに身に付けることができる遊びで、今後とも取り組めるとよい。

#### ○本校の児童のようす

- ・学校に来たときや、近所の子どもの様子を見てみると、やさしい子が多い。
- ・あいさつばかりではなく、子どもたちや先生方に親しみやすさがある。
- ・子どもたちは、皆、名前で呼び合い、名字で呼ぶ子がいない。先生方も含め、大きな家族のような学校。
- ・そのようなところが伸びると、石中（大規模校）に行っても、自分に自信をもって過ごせるのではないか。（自尊心）
- ・現在の中学1年生は、男子4名、女子1名だが、男女とも仲がよく、仲よく話していても、自然で、ひやかされることもないということを知っている。
- ・中学生になっても、周りの子をおおらかに見られるようである。
- ・成績も優秀でがんばっているようだ。
- ・縦割り班で、一人一人がリーダーとして活躍しているので、人数が増えても（大きな学校にいても）小学校での学びを生かしていける。
- ・40数人のところから、大規模校に進学することで心細さもあるだろうがしっかりと巣立っている。
- ・世の中に出たら一人。自分で決めて進んでいかなければならない。中学生になったら、一人でもがんばれるように。（友だちの有無ではなく、自立して）
- ・一人っ子は、細谷小でむしろ兄弟のように育つのでは。小さいうちから小さな集団で切磋琢磨している。

#### ○1年間の教育活動を振り返って

- ・質問項目⑦「児童は互いを思いやり、助け合って生活している」  
94%の児童、89%の保護者の肯定的評価が素晴らしい。また、教職員評価の17の質問項目のうち、11項目が肯定的評価であることも素晴らしい。これは学校が一枚岩で教育に当たっていることを表している。
- ・これからは、学校も家庭も「自立して生き抜くことのできる児童を育てる」ことが不可欠である。それについての重点やそれを踏まえた細谷小の取組について、次年度さらに話題にしていきたい。

(2) 情報交換・その他

○平成31年度 適正配置推進委員会（小規模特認校として）

- ・小規模特認校を選ぼうとしたときに、「どうせ3年後にはなくなってしまうんでしょう？」という誤った認識があること。
- ・あやめ地区（学区外）の児童を省くと国分寺西小の児童数よりも少ないという事実
- ・学校運営協議会（地域）でできることを探る。  
市街化区域への用地変更（城山西小も学区外の児童の増加）

(3) 平成31（2019）年度学校運営協議会委員の選出

- ・細谷地区、橋本地区は自治会長が改選になる予定  
自治会長は充て職となり、改選になった場合は、引き継いでいただく。
- ・現委員1名は多忙で委員会に出席できなくなったため、退任する。新委員は、保護者代表として、30年度育成会代表を務めた保護者に依頼する。
- ・その他の委員は、継続することを確認する。

(4) 今年度の活動を振り返って

- ・学校の雰囲気、教職員の指導は、児童生徒に現れるものである。本校の児童や教職員の姿を継続して行ってほしい。
- ・自分が保護者であった時は、母親まかせで学校に来ることもなかったが、このような機会に、様々な場面の学校、児童、孫の様子を見られて、とてもよい経験となった。地域の学校を再認識した。
- ・31年度は、人数がまた増加することのこと。細谷地区の児童で他校に行く児童も少しいるが、本校のよさ（教職員、雰囲気）を伝えていければ。中学校に行っても問題ないことを伝えていくことは必要では。
- ・できることをまた継続してやっていきたい。

4 今後の予定

細谷小学校卒業式                      3月19日（火）9時30分開式

5 閉会